

学校生活満足度調査の分析について

1 学校生活満足度調査について

学校生活満足度調査は、平成24年度から毎年6月、11月、2月に実施している「ふれあい月間」の時期に、大泉桜学園が全児童・生徒を対象として独自に行っている質問紙調査である。各学級における児童・生徒の学校生活への適応状況等を把握し、学級経営等に生かすために実施している。

2 使用したデータ

- (1) 平成24年6月、平成25年2月、平成25年6月、平成26年2月に実施した学校生活満足度調査の回答を分析した。
- (2) 分析に使用したデータは、質問1、5、8、9、16、17の6問である。

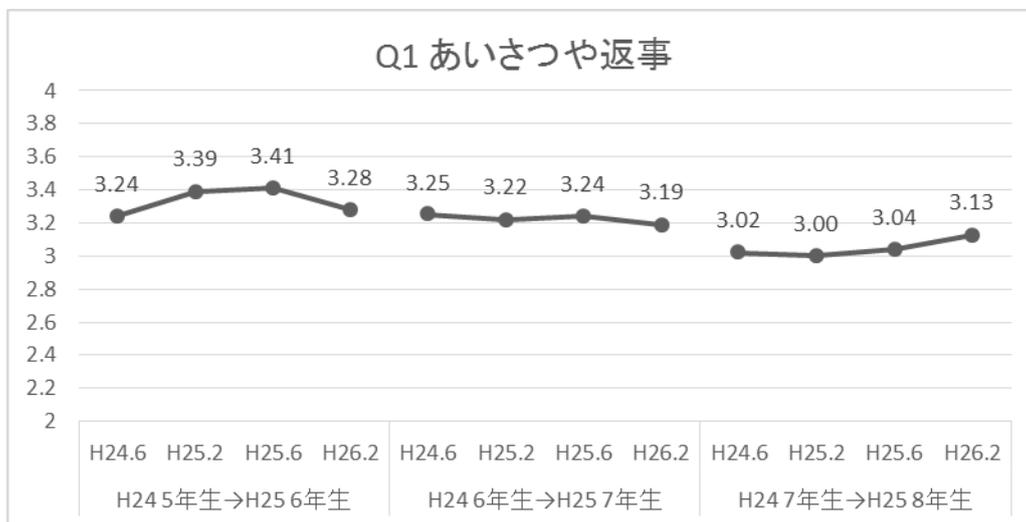
質問1	あなたは、元気よくあいさつや返事をしていますか。
質問5	あなたは、学校で友達と一緒に楽しく遊んだり学習したりしていますか。
質問8	あなたは、友達にいやなことを言われたことがありますか。
質問9	あなたは、友達に仲間はずれにされたことがありますか。
質問16	クラスの中に、あなたの気持ちを分かってくれる人はいますか。
質問17	あなたがなにかしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、応援してくれたりすると思いますか。

3 同学年における年度別比較および同年齢集団の回答の変化について

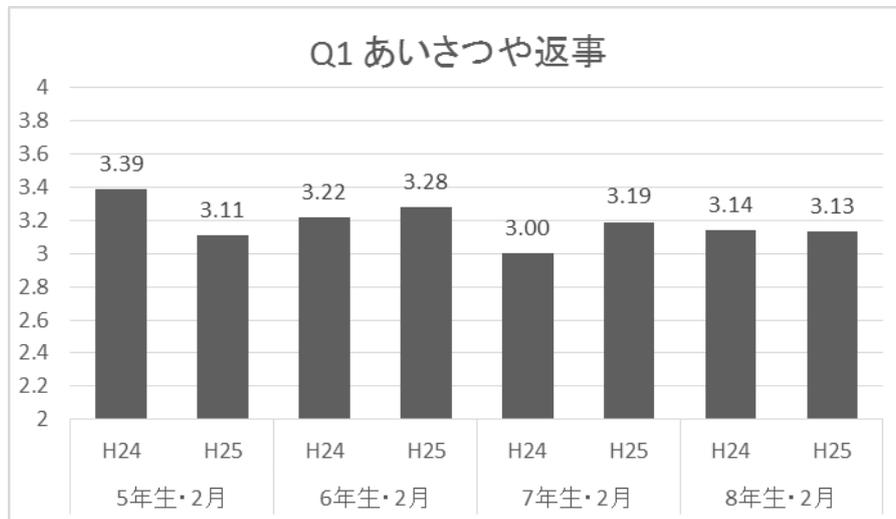
(1) (質問1) あなたは、元気よくあいさつや返事をしていますか。

→ 質問の回答については、「よくしている」を4点、「していない」を1点とした数値の平均値を使用した。

① 同じ学年集団における時系列の変化については、共通した傾向は見られなかった。



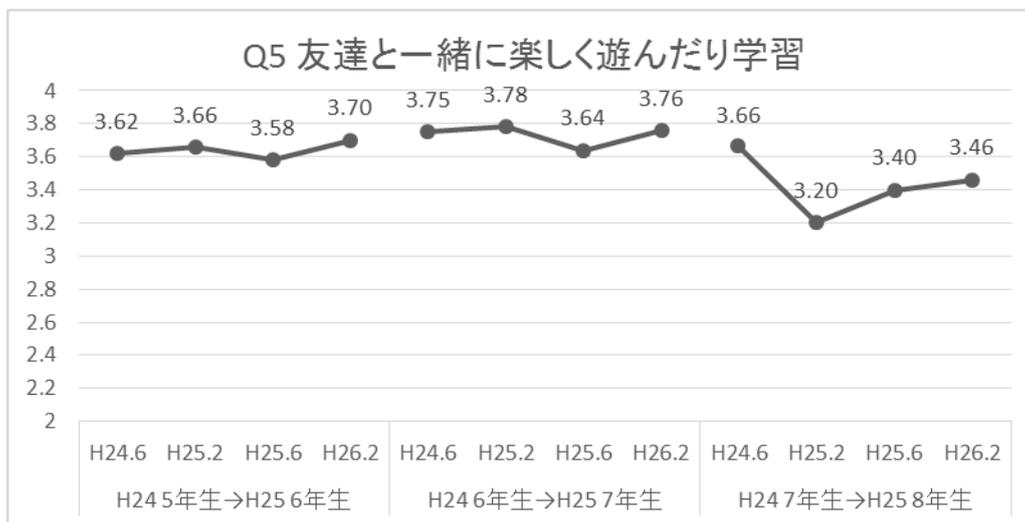
② 平成24年度と平成25年度における同学年を比較した場合については、6・7年生においては、平成24年度よりも平成25年度の方が平均値は高く、あいさつや返事をする傾向が高かった。



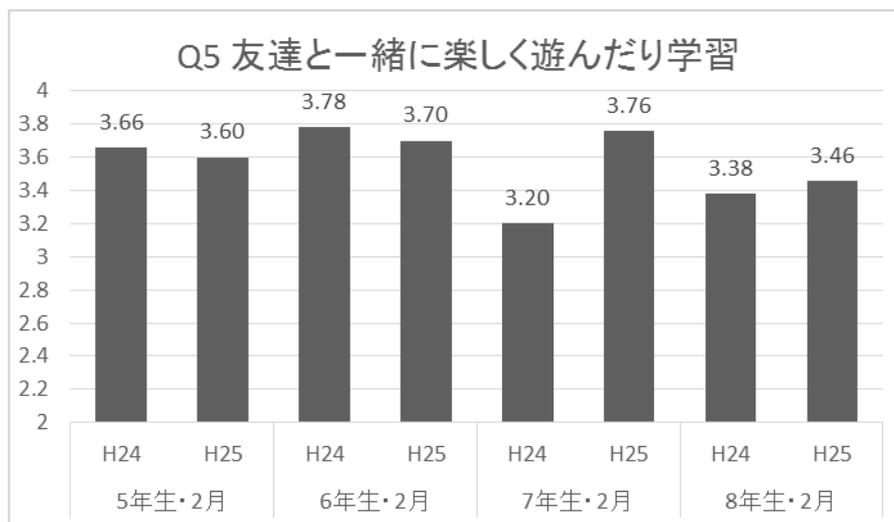
(2) (質問5) あなたは、学校で友達と一緒に楽しく遊んだり学習したりしていますか。

→ 質問の回答については、「よくしている」を4点、「していない」を1点とした数値の平均値を使用した。

① 同じ学年集団における時系列の変化については、平成24年度の5・6年生の平均値は高水準を維持し、7年生は平成24年度末に平均値が下がった。



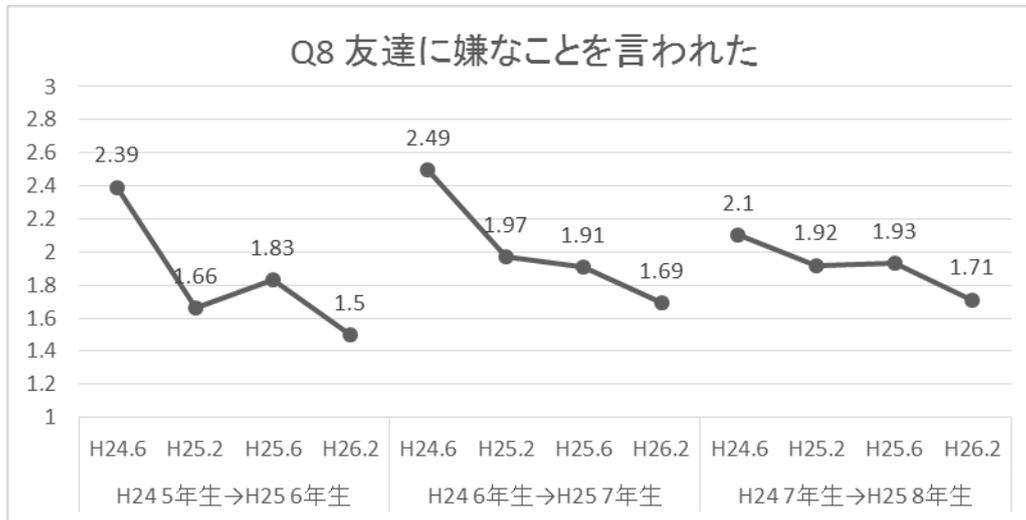
② 平成24年度と平成25年度における同学年を比較した場合については、7年生で平均値が上昇し、楽しく遊んだり学習したりしている傾向がみられる他は、大きな差はない。



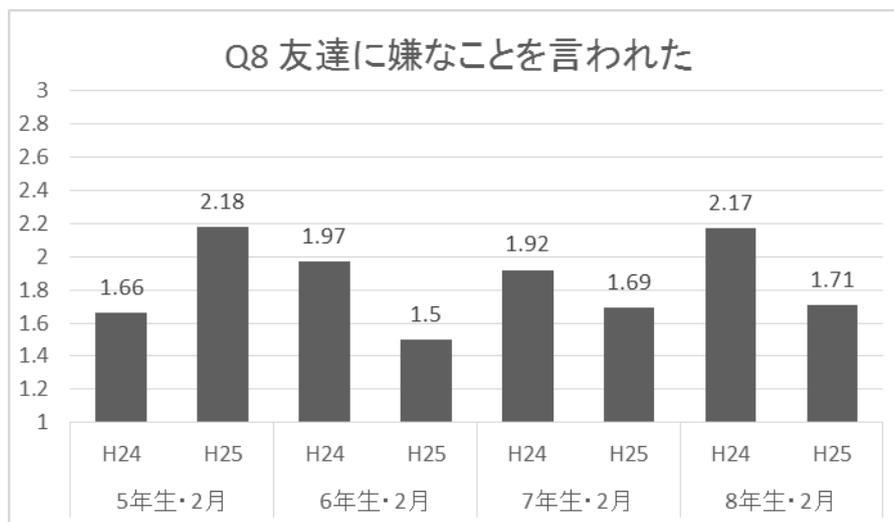
(3) (質問8) あなたは、友達にいやなことを言われたことがありますか。

→ 質問の回答については、「よくある」を4点、「ほとんどない」を1点とした数値の平均値を使用した。

① 同じ学年集団における時系列の変化については、どの学年集団においても平均値が減少しており、嫌なことを言われなくなる傾向があった。



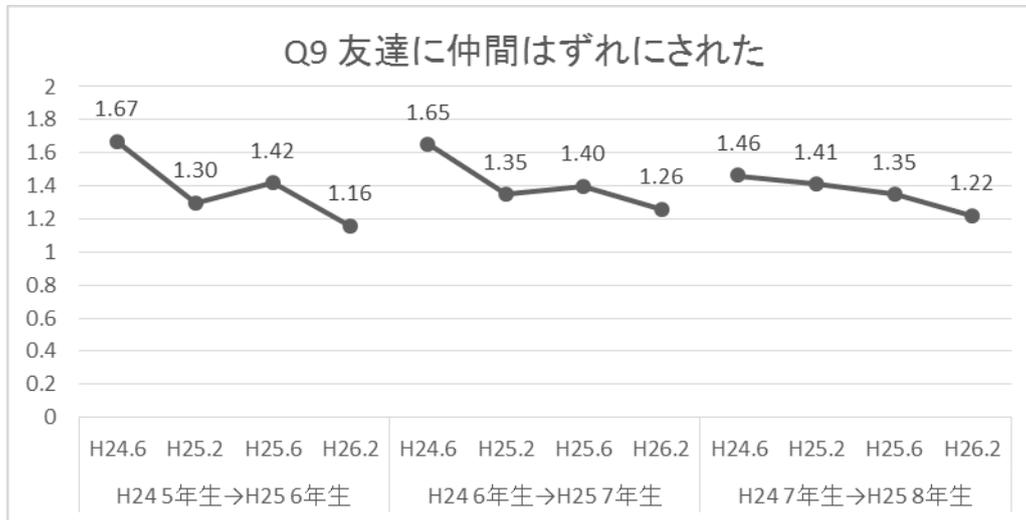
② 平成24年度と平成25年度における同学年を比較した場合については、6～8年生において平均値が減少し、嫌なことを言われなくなる傾向があった。



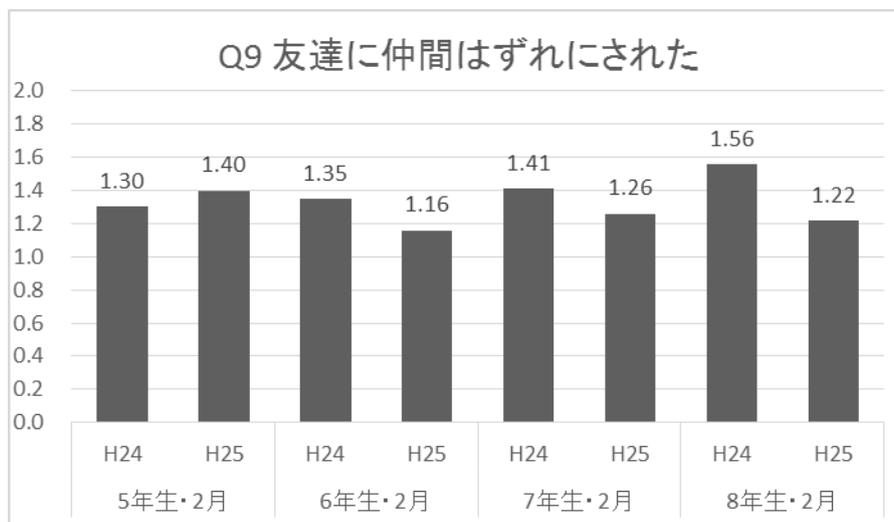
(4) (質問9) あなたは、友達に仲間はずれにされたことがありますか。

→ 質問の回答については、「よくある」を4点、「ほとんどない」を1点とした数値の平均値を使用した。

① 同じ学年集団における時系列の変化については、どの世代でも平均値が減少しており、仲間はずれにされなくなる傾向があった。



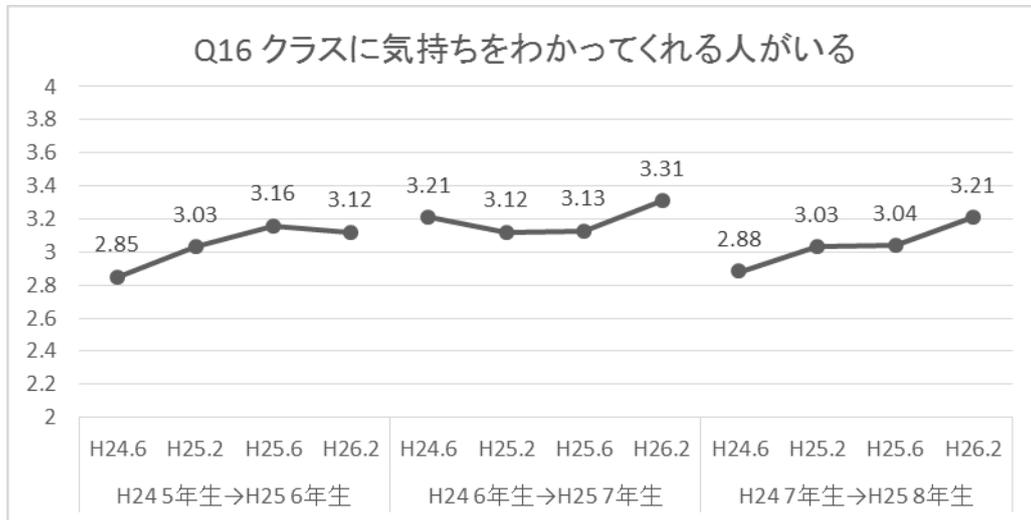
② 平成24年度と平成25年度における同学年を比較した場合については、6～8年生に関しては平均値が減少し、仲間はずれにされない傾向があった。



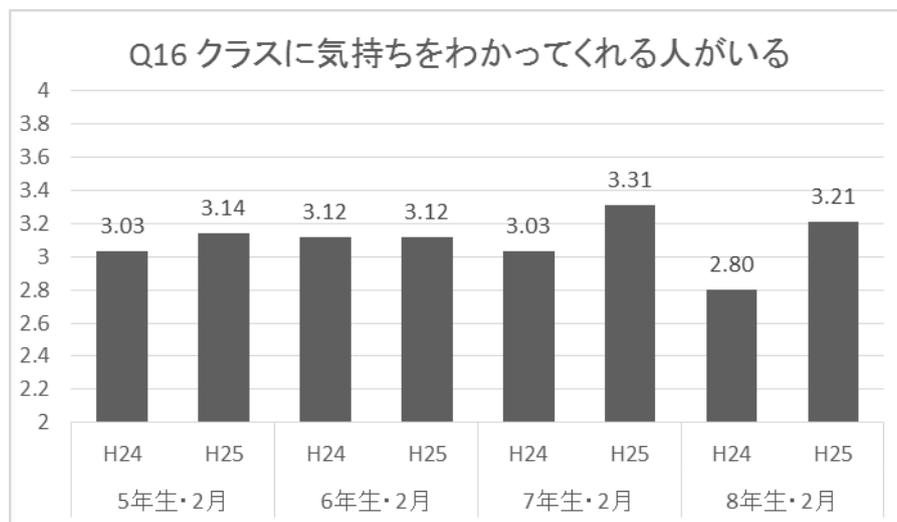
(5) (質問16) クラスの中に、あなたの気持ちを分かってくれる人はいますか。

→ 質問の回答については、「たくさんいる」を4点、「まったくいない」を1点とした数値の平均値を使用した。

① 同じ学年集団における時系列の変化については、平成24年度に5・7年生だった学年集団では平均値が増加し、クラスに理解者がいるようになる傾向があった。



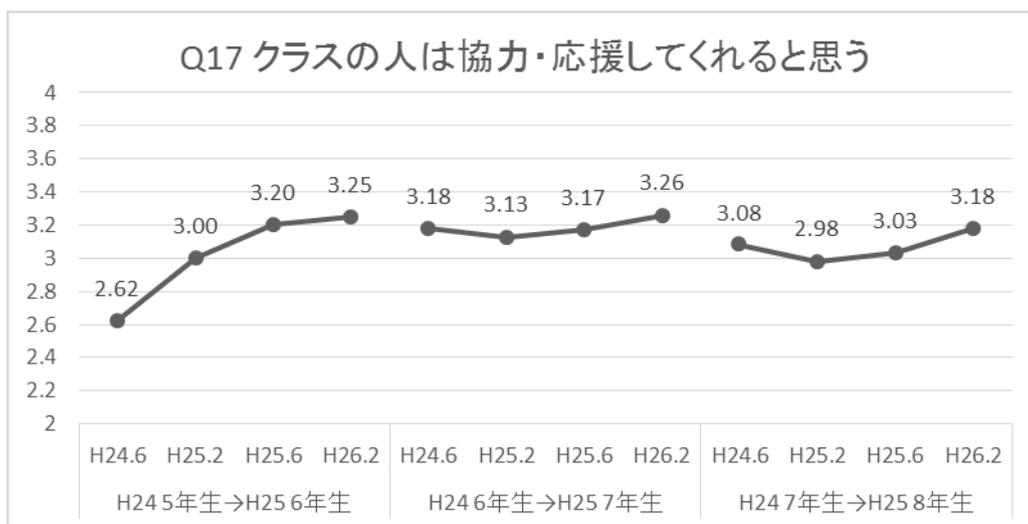
② 平成24年度と平成25年度における同学年を比較した場合については、5・7・8年生では平均値が増加し、クラスに理解者がいる傾向があった。



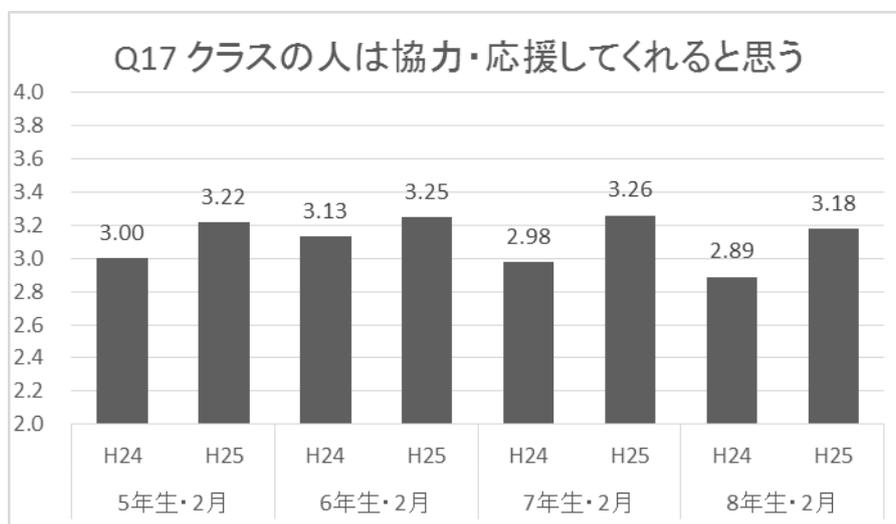
(6) (質問 17) あなたがなにかしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、応援してくれたりすると思いますか。

→ 質問の回答については、「とても思う」を4点、「まったく思わない」を1点とした数値の平均値を使用した。

① 同じ学年集団における時系列の変化については、平成24年度における5年生の学年集団では平均値が増加し、協力・応援をしてくれるようになる傾向があった。他は微増傾向であった。



② 平成24年度と平成25年度における同学年を比較した場合については、どの学年でも平均値が増加し、協力や応援をしてくれる傾向があった。



(7) 小括

① 同じ学年集団における時系列の変化を比べると、時期が遅くなるにつれて回答が肯定的な方向に変化する学年集団や項目が多かった。このことから、最近になればなるほど、学校に適応していく傾向にあることが考えられる。

② 平成24年度と平成25年度における同学年を比べると、平成25年度における回答が概ね肯定的な方向に変化している。このことから、同学年を比べた場合、平成24年度よりも平成25年度の児童・生徒の方が学校に適応している傾向にあることが考えられる。

4 7年生における大泉桜学園内からの進学者と他の小学校からの進学者との比較について

- (1) 平成24年度に7年生になった他の小学校からの進学者は、調査の時点によっては大泉桜学園内からの進学者よりいやな言葉を言われたり仲間はずれにされたりする傾向もみられたが、基本的には大泉桜学園内の進学者との平均値の差はほとんどなかった。
- (2) 平成25年度の7年生においては、他の小学校からの進学者も大泉桜学園内の進学者と同等以上に学校生活に適応している。

